

“母校を愛した”竹喬さん(その2)

笠岡地区まちづくり協議会  
文化部会・子ども新聞部



(五年 佐藤美織 馬越袖末)

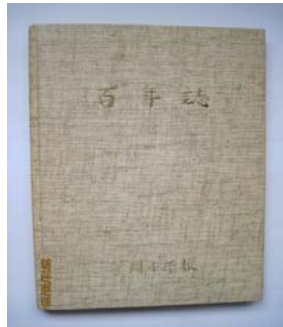
昭和四十八年(一九七三年)に職員室や図書室があった古い校舎を建てなおして体育館を建てました。次の年に笠岡小学校ができて、百年になるお祝いをしました。そのころ、竹喬さんは京都に住んでおられました。お祝いに「百年誌」の題字と「笠岡小学校」の文字を金粉で書いて下さいました。次のページに青い「まぼろしの校門」をかいとくださいました。終わりに「笠岡小学校の思い出」の作文を児童のみなさんへと書いて送って下さいました。そのころ学校にとてもおられた先生は「チシヤの木がとても好きで帰った時には必ず目にこられました。いつもにこにこことやさしい目をしたおじいさんでした。」と思いを語って下さいました。



講堂にあった富士山(昭和17年作)



まぼろしの校門



百年誌表紙

かさおかしょう たからもの 笠岡小の宝物



笠岡小学校の思い出

竹喬さんは明治二十八年初めて校門をくぐった時のことがとても心に残ったようです。笠岡小学校ができて百年の記念の時に百年誌をつくりました。竹喬さんも母校の百年目を記念して笠岡小学校の皆さんへと書いて笠岡小学校の思い出の作文を送って下さいました。百年誌にのっている竹喬さん直筆の作文です。貴重な宝物です。私たちは大切に守り続けなければなりません。

(六年 田中茉莉子)